



商標とれたて



全国新酒鑑評会で21回連続金賞を受賞している秋田酒類製造(株)の銘酒「高清水」。その技術を生かし、令和2年に設立されたのが高清水化粧品株式会社だ。平成28年11月の新発売以降、約5年にわたり販売を行ってきたが、令和4年2月、ブランド名「高清水化粧品」が商標登録された。



化粧水(写真上)は少量でも、伸びがよく、しっとりとした質感が長く続く。日本酒の香りは抑えられているため、酒が苦手な方にも受け入れられやすい。

高清水化粧品 株式会社



営業部部长
浪岡 豊 Namioka Yutaka
〒010-0934
秋田市川元むつみ町4-12
(秋田酒類製造(株)の事業所内)
TEL.018-864-7331
FAX.018-864-7373
<https://takashimizucosme.com/>

「高清水の化粧品」で秋田美人肌に。 老舗のスキルを生かしたスキンケアシリーズ

酒づくりの技術を他分野へ

高清水化粧品(株)から販売されているのは、「酒屋のスキル」というブランドの化粧水、乳液、フェイスマスクと、「Komellクレンジングバーム」の4アイテム。

いずれも秋田県産米と良質な仕込み水を使用した「コメ発酵液」が使用され、保湿成分として、ジュンサイ葉エキスやキイチゴの種子油など、秋田ゆかりの素材を使用。アミノ酸、ビタミン、ミネラルが豊富で、とくに「酒屋のスキル」シリーズは、ハリと弾力を司るアミノ酸「グリシン」が他社の製品の約5倍含まれているという。これは、米麴をふんだんに使用していることが要因しており、まさに酒づくりの「スキル」が生きている。女性社員を主体に、3年間、18回もの試作を繰り返して生まれた商品だ。

商標登録でより強固なブランドに

このたびの商標登録では、特許庁から類似性の観点から一度は拒絶通知が届いたが、センターの知財窓口支援担当者がアドバイスと手続き方法を助言。その後手続きがスムーズに進み、交渉を進めた結果、無事登録に至った。

盤石なブランドづくりを進めながらも、営業部部長の浪岡豊氏は「まだまだ秋田県内での認知が少ない。まずは知っていただくことから始め、東北、さらには全国へと着実に展開していきたいですね」と話す。

そのために導入しているのが、副業人材の雇用だ。センターの「秋田県プロフェッショナル人材戦略拠点」のコーディネートのものと、この春から首都圏より販売やマーケティングの経験者を3名ほど採用し、リモートでやりとりしながら業務拡張を図っている。日本酒業界全体がコロナ禍の打撃を受けるなか、日本酒の新たな可能性として期待が高まる。